

京都府食育推進計画（中間案）への意見

2006年11月14日

京都府生活協同組合連合会

専務理事 小峰耕二

〔1〕 京都府の地域特色をおさえた食育推進取組の必要性

- (1) 本案でも指摘されているように、京野菜等の伝統的な産物が身近にあること、食にたずさわる優れた技術者が数多く存在すること、消費生活の面でも京料理や行事食をともなった食文化が根づいていることなど、他府県にはない特徴を「京都の食」は有しています。こうした点は、観光者にとっても京都を訪れるさいの大きな魅力となっています。
- (2) 京都府における食育推進は、こうした地域特色を十分におさえながら、取り組まれる必要があると考えます。

〔2〕 情報交流・活動交流を活発に、推進体制を明確に

- (1) 京都府の南北に長い形状と京都市への人口集中という地域特徴から、多面的な「食育」の活動が生まれることが期待できます。ついては、府行政のはたす役割も大きいと考えます。
- (2) 府行政においては、
 - ①食育にかんする「情報交流」がとくに活発になるようにしていただきたい。他府県でも実施されているように、府ホームページに「食育推進」のサイトを設置していただきたい。
 - ②本案でも提起されているように、「食育ネットワーク」を形成し、食育にかんする「活動交流」を活発にすることが重要です。そのような「場」をもっていただきたい。
 - ③ネットワークを推進する組織として「協議会」を設置するとのことですが、賛成です。多くの団体が加入し、息の長い取組にしていく必要があると考えます。

〔3〕 ライフステージごとの取組み～とくに青年期について

- (1) 食育の課題を、ライフステージごとに考えていくことは重要であり、子どもだけでなく、社会人や高齢者を視野に入れていくことは賛成です。
- (2) 青年期は、独り立ちし、またあらたな家族を形成する、こんごの人生を決めていく大切なプロセスをたどる時期です。基本的には成人であり、社会人となっていくライフステージですが、このステージでの食育の取組は次の世代にも決定的な影響をあたえると考えます。この分野の取組とサポート体制が、本案では、やや抽象的になっているように思えます。
- (3) このライフステージにおいては、私ども大学生協・地域生協・職域生協の役割も大きいと考えます。それぞれが取組をすすめると同時に、共同・連携の可能性を追求していきたいと考えています。

[4] 計画目標について

- (1) 「成果目標」とあわせて、「数値目標」をかかげたことは評価できます。もちろん、食にかんして「目標」が個人におしつけられるようなことはあってはなりません。行政・食品事業者・教育関係者・消費者団体等が認識の共有化をはかりながら、一定の「目安」をもっていくことは大切であると考えます。
- (2) 国がさだめた食育推進基本計画では10の事項について、目標をあきらかにしています。すべて、そのまま踏襲するというにもならないでしょうが、京都府の地域特性を反映しての目標設定でなければならないと考えます。
 - ①朝食摂取率については、小学生だけでなく、中・高校生、大学生も対象にしてはどうでしょうか。
 - ②京都府の現状からも、「やせ」と「肥満」の並存が指摘されていますので、バランスのとれた食生活を送っているかどうかの目標設定が必要なのではないのでしょうか。
 - ③学校での栄養教諭の育成・配置について、目標設定が必要なのではないのでしょうか。

[5] その他

- (1) 大学や研究等との連携が必要と考えます。調査活動や教育プログラムの開発などが考えられます。
- (2) 京都市との連携も重要です。
- (3) 食育活動応援のための、国の助成紹介や府独自の措置があってもよいと考えます。

以上